

都 田  
市 園

氷川  
HIKAWA

小さなまちで、大きな幸せを感じる



## INTERVIEW

氷川町で始めた農業というチャレンジ。  
手厚い支援と人とのつながりが力に。

花岡 和孝さん・梨花さんご家族

氷川町竜北地区でいちご農家を営む花岡さんご夫婦。もともとは八代市で暮らしていましたが、ご結婚を機に梨花さんの実家がある竜北へと移り住みました。「高校時代のアルバイトで農業派遣の仕事に関わったことがきっかけで興味を持つようになりました。頑張った分だけ結果が返ってくる農業の世界に魅力を感じました」と和孝さん。就農を決めた当初は、町内のベテラン農家さんのもとの研修。氷川町の手厚い支援制度も後押しになったそう。「氷川町役場の担当の方には、収支計画の作成から金融機関への対応まで、何から何まで支えてもらいました。おかげでスムーズに農業を始められました」と話します。現在はいちご栽培6期目に突入り、技能実習生の受け入れや面積拡大にもチャレンジ中。「農業って、頑張れば頑張るだけ前に進める。それがやりがいですし、氷川町にはそれを支えてくれる人や仕組みがあります。もし農業を始めたいという知り合いがいれば、まずは氷川町の行政の方を紹介しますね。すぐに動いてくれるはずですよ」と笑顔で話してくれました。



氷川町での暮らし

農産物



梨

100年以上前から梨の栽培が行われています。過去には天皇陛下に献上されました。国内はもとより、台湾にも輸出しており、海外でも人気の高い梨のブランドです。果肉が柔らかくみずみずしい甘さが特徴の吉野梨は、幸水、豊水、秋月、新高などの様々な品種が、毎年梨生産者により作られており、それぞれの味を時期で楽しむことができます。



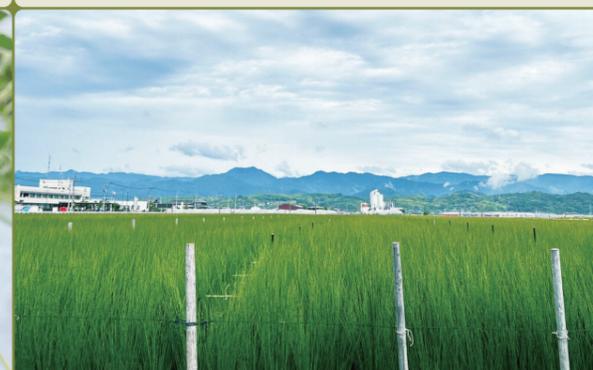
晩白柚

晩白柚は、サイズの大きさと、果皮の厚さに特徴があり、「柑橘の王様」と称されています。八代地域では、全国の生産量の9割を占めており全国各地や香港などへ販売をしています。見た目の美しさと迫力、そして上品で爽やかな味わいで、贈答品としても人気です。重さは平均約2kgですが、最大のもののは4kgを超えギネスブックにも登録されています。



いちご

氷川町はいちごの産地で、多くの品種が生産されています。生産の7割を占めるのは、しっかりとした食感と甘さが特徴の「ゆうべに」や、酸味と甘味のバランスに優れた「さがほのか」。「和鹿島いちご」という銘柄で関西や中国地方を中心に出荷され、高く評価されています。いちごは、気候に大きく左右されるため、栽培が難しい作物ですが、氷川町の生産者が愛情を注いで栽培を行うことにより、毎年安定的に生産できています。



い草

氷川町を含む八代地域でのい草の栽培には、500年以上の歴史があり、国内生産量のうち95%を占めています。天然のい草から作られた国産の畳表には湿度調節・断熱性・抗菌効果など様々な効果があります。全国各地の大規模災害時には、八代産の畳表を使用した置き畳を被災地へ届け、被災者に癒しを与え、避難生活のサポートに役立ちました。



道の駅竜北

地元農家から毎朝直送される新鮮な農産物がそろっている竜北物産館「ビストログリーン」。また、世界最大の柑橘「晩白柚」を贅沢に使ったスイーツ「晩白柚ジュレ」や、地元産のもち米で造る焼酎「火の君浪漫」など、地元産にこだわった加工品も多く取り揃えています。